

第37回国際福祉機器展（HCR2010） への研究所の出展報告

研究所 義肢装具技術研究部 三ツ本 敦子

2010年9月29日（水）から10月1日（金）の3日間、東京ビックサイト（有明）にて第37回国際福祉機器展（HCR2010）が開催されました。来場者は一般の方はもちろんのこと、福祉・介護・医療の従事者、研究者、メーカーの方など幅広い職種にわたり、3日間で119,451名を数えました。

今年度の国立障害者リハビリテーションセンター研究所のテーマは「記憶・見当識障害を補う支援機器 - 認知症のある人の生活自立に向けて -」で、福祉機器開発部や障害工学研究部より複数の支援機器を展示しました。アラーム付き薬入れ、電子カレンダー、探し物発見機、携帯電話アプリケーションなど生活に身近なツールが紹介され、来場者は実際に手に取って説明を受けていました。特に注目を浴びていたのは、情報支援パートナーロボットと自動ブレーキ付き車いすでした。認知症の方とコミュニケーションをとることができる情報支援パートナーロボットは老若男女問わず「お話したい」とあっという間に人だかりができました。自動ブレーキ付き車いすに関しては、「現場で最も危険で発生率の高いブレーキのかけ忘れが防止できる」「シンプルな機構だけど、本当に必要とされている機能だ」とのご好評をいただきました。

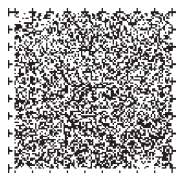
また、サブ・ブースでは脳機能系障害研究部による「脳波による生活環境制御」と義肢装具技術研究部による「ニーズに合わせた義手・義足」のビデオが紹介されました。多くの方が足を止めて「脳波で動いてどういう仕組みなの？」「義足の支給について教えてほしい」などのご質問が寄せられまし

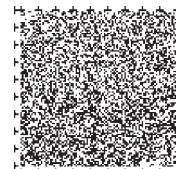
た。

大きなホール会場の入口正面にブースが配置がされたこともあり、開催期間中は人の波が絶えないほど多くの方に立ち寄っていただきました。用意していたパンフレットも好評で、3373部も配布することができました。

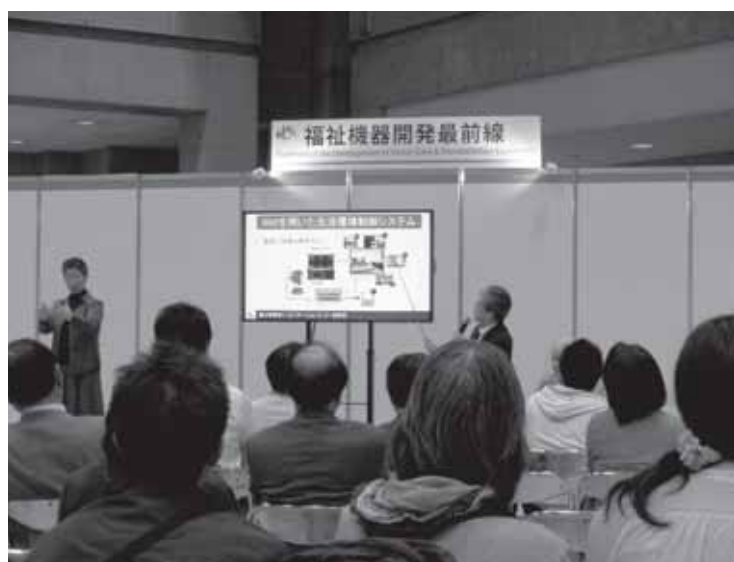
その他にも特別枠のワークショッププログラムとして、福祉機器開発部が「座位保持装置・車いすの基礎講座-強度と規格-」と題して講演を行い、特別企画の福祉機器開発最前線のセッションでは、脳機能系障害研究部による「ブレインインターフェースを用いた生活環境制御システム」と福祉機器開発部による「透明文字盤に文字保存機能を付加した意思伝達システム」が発表されました。どちらのセッションも、席がすぐに埋まってしまい、熱心にメモを取っている参加者も多かったのが印象に残っています。

3日間という短い開催期間でしたが、研究所ブースの中で多くの福祉機器のユーザー（またはご家族や支援者の方々）の率直なフィードバックがあり、研究者にとってはモチベーションが高められた機会だったと思います。このような展示会を通して情報交換を行うことで、研究者・医療従事者にとっても、福祉機器の利用者にとってもお互いに有意義な時間を過ごせることに改めて気づかされました。最後に今回の出展に関して御尽力をいただきました皆さま、ご参加いただきました方々に御礼申し上げます。





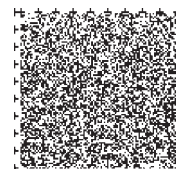
にぎわう研究所ブース

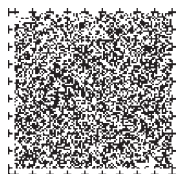


特別企画でのプレゼンテーションの様子



展示された支援機器





学院学校説明会に105名が参加

学院事務室

当学院では例年、入試等に関する問い合わせが多くなる時期にあわせ、学校説明会を行っています。今年度は10月12日（火）13時より当学院で開催しました。

当日は、まず参加者全員に学院講堂へ集まっていたが、全学科合同で中島学院長の挨拶と全体説明を行ったあと、希望学科ごとに分かれて具体的な説明を行うというスケジュールで進みました。簡単ですが当日の様子をお伝えします。

学院長は挨拶の中で、国立障害者リハビリテーションセンターという名称についての説明という形をとりながら、障害とはなにか、リハビリテーションとはどういったことかについてわかりやすく述べられ、学校説明会の機会を大いに活かして情報を得て帰ってほしい、と締めくくられました。

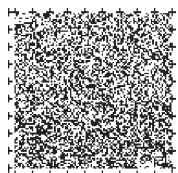
学院長挨拶の後、養成主事が平成23年度入学試験に関することや学院での生活、学生宿舎などについて15分ほど全体的な説明を行いました。その後、5つの学科について紹介を行いました。1学科につき5分程度と短い時間でしたが、各学科ともスライドや動画などを使いながら、その学科で学ぶことができる内容や目指す職業について要点を押さえた説明を行っていました。

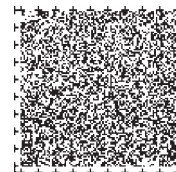
講堂での説明は1時間ほどで終え、希望学科ごと

に分かれてそれぞれの学科のあるフロアへ移動しました。各学科では教官から学科の概要、カリキュラム、就職状況等について説明を行うとともに、教室や実習室などを案内し、午後4時過ぎには全ての学科の説明を終了しました。参加者は、来春の大学等卒業予定者や社会人など様々で、合計105名でした。

参加された皆さんには、7月末に行われたオープンキャンパス同様にアンケートにご協力をお願いし、68名から回答をいただきました。今回は質問の内容を少し変えて、当学院をどのような手段で知ったかについてうかがいました。91.2%の方は当センターホームページから、との回答でした。さらに当センターのホームページをどのような方法で知ったかについてうかがったところ、学校を紹介するサイトとインターネットでのキーワード検索を合わせた数が66.1%となり、インターネットから情報を得ている方が多いことが改めてわかりました。今回のアンケート結果は、今後、学院を周知する方法を検討するにあたり重要な材料となるでしょう。

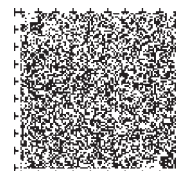
各学科別参加者数の内訳は、次の表のとおりです。来春、1月に予定されている入学試験時には、リハビリテーション分野における先駆的指導的専門職員を目指す、優秀で、かつ熱意のある受験生が数多く応募されることを期待しています。

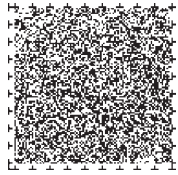




学科別学校説明会等参加状況

学 科 名	参 加 者 数		
	学校説明会	オープンキャンパス (7/31実施)	総合計
言語聴覚学科	58人	75人	133人
義肢装具学科	28人	58人	86人
視覚障害学科	5人	5人	10人
手話通訳学科	13人	20人	33人
リハビリテーション体育学科	1人	3人	4人
合 計	105人	161人	266人





平成22年度

リハビリテーション実施状況 (10月報告)

1 自立支援局利用者状況

(1) 昼間実施サービス状況 (1日平均)

(単位：人)

課 程		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自立訓練 (機能訓練)	H.22	25.1	23.8	26.1	25.3	25.6	24.9	27.3						25.3
	H.21	14.9	17.2	20.9	25.0	24.2	27.4	27.0	26.5	28.0	28.0	26.2	30.9	24.7
自立訓練 (生活訓練)	H.22	10.8	10.8	10.8	10.9	11.0	10.7	11.9						11.0
	H.21	9.6	9.9	9.1	7.8	6.3	9.8	9.8	9.8	9.4	9.7	10.0	11.0	9.3
就労移行支援	H.22	65.5	77.4	62.5	64.9	69.4	65.7	54.8						65.6
	H.21	55.3	62.7	56.5	59.8	66.9	70.3	76.8	59.0	66.8	56.8	61.0	42.6	61.0
就労移行支援 (養成施設)	H.22	87.8	95.0	95.0	94.0	93.0	92.7	92.0						92.8
	H.21	72.7	77.7	76.8	75.5	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	59.6	73.8
合 計	H.22	189.2	207.0	194.4	195.1	199.0	193.9	185.9						194.6
	H.21	152.5	143.6	171.0	176.0	172.3	165.1	188.6	154.1	162.2	153.4	155.8	151.0	168.8

(2) 施設入所支援サービス状況 (1日平均)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所支援	H.22	202.6 (66.4)	215.1 (67.9)	203.8 (68.3)	202.3 (67.2)	209.0 (68.9)	207.6 (68.5)	199.4 (70.6)						205.7 (68.3)
	H.21	185.3 (69.0)	193.7 (65.5)	187.3 (64.2)	189.6 (62.5)	187.8 (58.4)	198.9 (59.9)	200.6 (59.7)	189.7 (66.8)	194.5 (64.9)	193.0 (72.4)	192.0 (68.2)	184.3 (60.4)	191.4 (64.2)

※ () は、職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者の内数である。

(3) 独自事業 (1日平均)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自動車訓練	H.22	11.5(4.8)	16.6(10.1)	16.1(8.9)	14.5(8.3)	12.0(4.7)	12.9(5.3)	13.7(7.2)						13.9(7.0)
再理療教育	H.22	0.0	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0						0.8
臨床研修コース	H.22	1.3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7						2.7

※ () は、自動車訓練のみ利用している者の数である。

(4) 利用者数計 (1日平均)

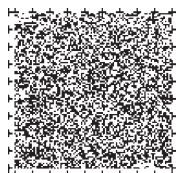
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
支援サービス	H.22	255.6	274.9	262.7	262.3	268.0	262.4	256.5						262.9
独自事業	H.22	6.0	13.9	12.9	12.3	8.7	9.3	10.8						10.5
利用者数総計	H.22	261.7	288.9	275.5	274.7	276.6	271.6	267.3						273.4

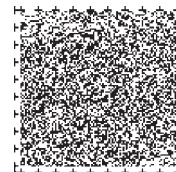
※1「支援サービス」は、「昼間実施サービス」の利用者及び「職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者」の合計数である。

※2「独自事業」は、自動車訓練のみの利用者及び再理療教育、臨床研修コース利用者の合計数である。

2 病院入院患者の状況 (1日平均)

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	115.6	117.1	109.9	95.7	91.8	87.0	85.7						100.4
	H.21	121.0	107.4	102.5	102.2	107.7	105.3	95.6	88.3	81.6	89.5	100.0	108.3	100.8
一 般	H.22	114.5	116.7	109.0	94.8	90.9	86.4	85.0						99.6
	H.21	119.4	104.8	100.5	102.1	107.0	105.3	94.7	88.3	81.6	89.4	98.7	108.3	100.0
利 用 者	H.22	1.1	0.5	0.8	0.9	0.9	0.6	0.7						0.8
	H.21	1.6	2.6	2.0	0.0	0.7	0.1	0.8	0.0	0.0	0.1	1.3	0.0	0.8





3 病院外来患者の状況（1日平均）

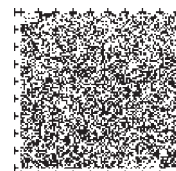
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	142.3	154.1	146.3	151.1	140.8	148.4	144.3						146.6
	H.21	154.9	162.1	151.0	152.6	147.9	151.5	146.6	145.2	151.5	143.6	135.3	135.7	148.2
一 般	H.22	129.7	142.1	132.5	136.8	128.8	135.7	131.1						133.6
	H.21	143.0	147.6	138.8	139.7	136.1	137.5	134.0	132.4	139.0	123.2	117.5	113.8	133.6
利 用 者	H.22	12.6	12.0	13.7	14.4	12.0	12.6	13.2						12.9
	H.21	11.8	14.3	12.2	12.9	11.7	14.0	12.6	12.7	12.5	20.3	17.7	21.9	14.6

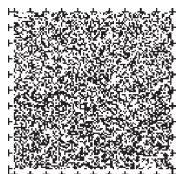
4 見学者の状況（実人員）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
医 療	国 内	84	206	277	76	433	388	158						231.7
	海 外	32	54	43	1	0	45	2						25.3
教 育	国 内	12	96	2	105	37	13	64						47.0
	海 外	0	0	22	1	26	0	1						7.1
福 祉	国 内	106	68	88	112	53	125	104						93.7
	海 外	5	18	33	13	0	19	0						12.6
職 業	国 内	17	0	14	9	2	15	1						8.3
	海 外	0	0	1	0	0	0	0						0.1
そ の 他	国 内	50	42	59	14	21	122	26						47.7
	海 外	2	2	35	0	1	5	4						7.0
うち障害者 (再 掲)	国 内	9	21	13	34	4	6	36						17.6
	海 外	0	1	20	0	0	0	0						3.0
平成22年度 合 計	国 内	269	412	440	316	546	663	353						428.4
	海 外	39	74	134	15	27	69	7						52.1
	計	308	486	574	331	573	732	360						480.6
平成21年度合計		332	448	599	387	476	631	355	436	208	371	405	314	413.5

5 学院生の在籍状況（月末現在）

学 科	学 年	人 数
言 語 聴 覚 学 科	1 年	31
	2 年	28
	小 計	59
義 肢 装 具 学 科	1 年	9
	2 年	10
	3 年	8
	小 計	27
視 覚 障 害 学 科	1 年	10
	2 年	4
	小 計	14
手 話 通 訳 学 科	1 年	14
	2 年	10
	小 計	24
リハビリテーション体育学科	1 年	2
	2 年	3
	小 計	5
合 計		129





センターのロゴ

センターのロゴは、国際障害者年を記念し、入所者・職員から募集した作品の中から選定されたものです。

このロゴは、

- 1 リハビリテーションセンターを包む、リハビリに対する強い意欲・意思・たゆまざる努力、そして友情と信頼、
- 2 リハビリテーションセンターを出発点として、未来にまた広く社会各方面に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、
- 3 手話の指、点字を読む指、職業、職能、理療に励む力強い5本の手指

をイメージ化したものです。

また、NRCDはNATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIESの頭文字です。

制作者 住田律夫（昭和56年制定）



上のシンボルマークは、WHO（世界保健機関）のマークです。

WHO（World Health Organization）とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関であり、その目的は、全人類の健康を守るために、世界の国々が力を合わせて努力しようとするものです。

国立障害者リハビリテーションセンターは、WHO指定研究協力センターの指定を受け、国際協力を行っています。

「国リハニュース」編集事務局

国立障害者リハビリテーションセンター管理部企画課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL 04-2995-3100 FAX 04-2995-3661

ホームページアドレス <http://www.rehab.go.jp/>

（国リハニュースはホームページに掲載されています）

※本誌へのご意見、ご要望等がございましたら、上記編集事務局宛

FAX又は、Eメール（kikakuka@rehab.go.jp）をお寄せ下さい。

